

HOW TO USE A BADGE MACHINE

バッジマシンの操作方法



目次

原稿をカットする機材のご説明	1
Lカッター・操作手順	2
Kカッター・操作手順	3
MKカッター・操作手順	4
バッジマシーン各部の名称	5
バッジマシーン・操作手順	6～8
アタッチメントの取り外し方	9
アタッチメントの取り付け方	10
故障かな？と思ったら（うまくプレスできない）	11
メンテナンス方法	12
原稿制作・印刷時の注意点	13
バッジ制作に失敗した時は・よくあるご質問	14

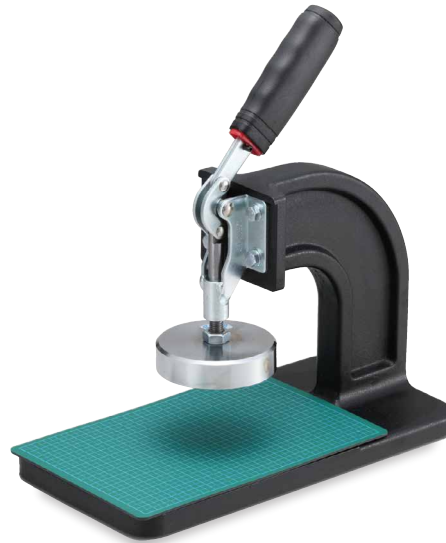
原稿をカットする機材のご説明

Lカッターをお使いの方



2ページへ

Kカッターをお使いの方



3ページへ

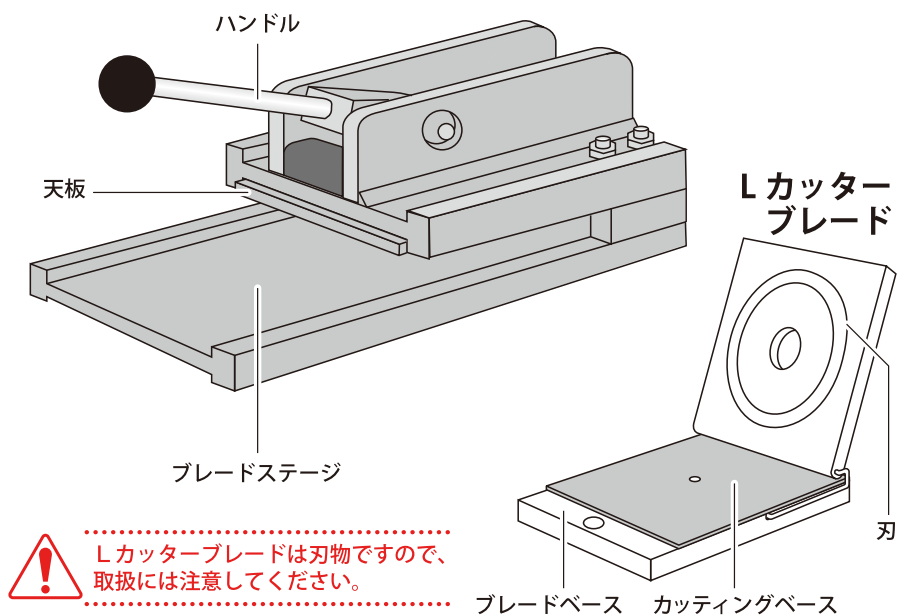
MKカッターをお使いの方



4ページへ

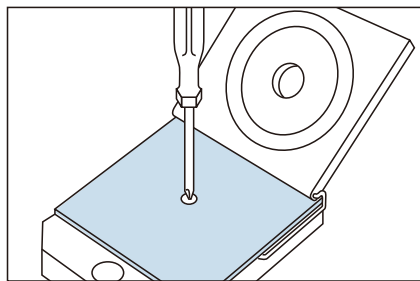
Lカッター

Lカッター



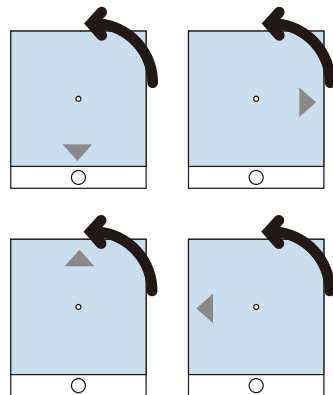
原稿の切れが悪くなった場合は、ブレードのカッティングベースを付け替えてください。

●カッティングベースは裏表使用できます。



中心のネジをプラスのドライバーで外し、カッティングベースを付け替えてください。

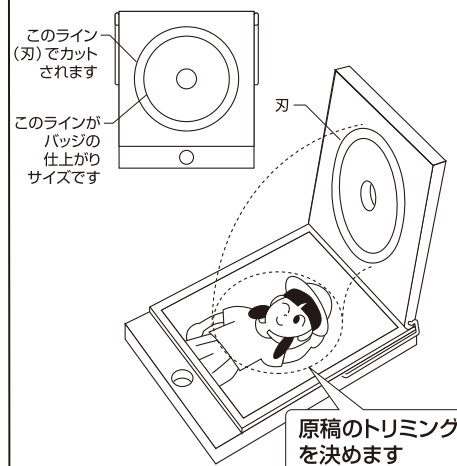
●カッティングベースの向きを変えるだけでも、切れが良くなる場合があります。



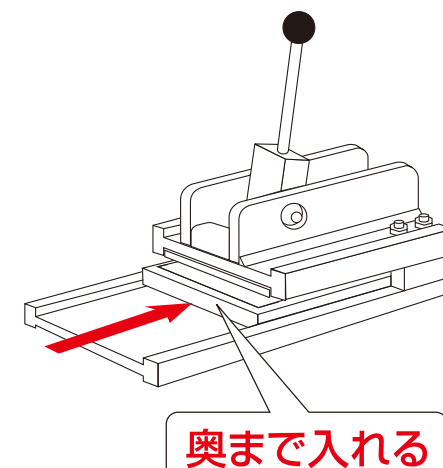
※カッティングベースはオプションとして販売しております。

操作手順 (原稿をカットします。)

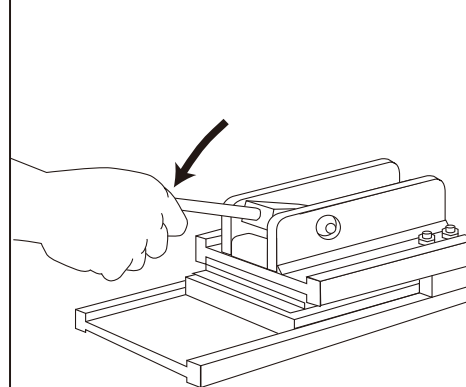
1 トリミングを決め、ブレードのフタを開めます。



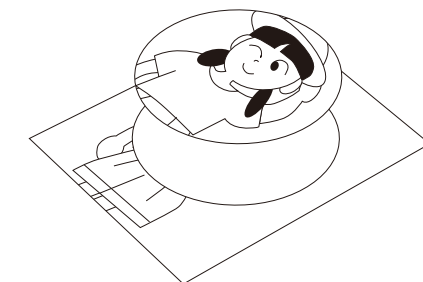
2 LカッターブレードをLカッターにセットします。



3 ハンドルを下ろしカットします。



4 レバーを上げ、原稿を取り出すとカットされています。

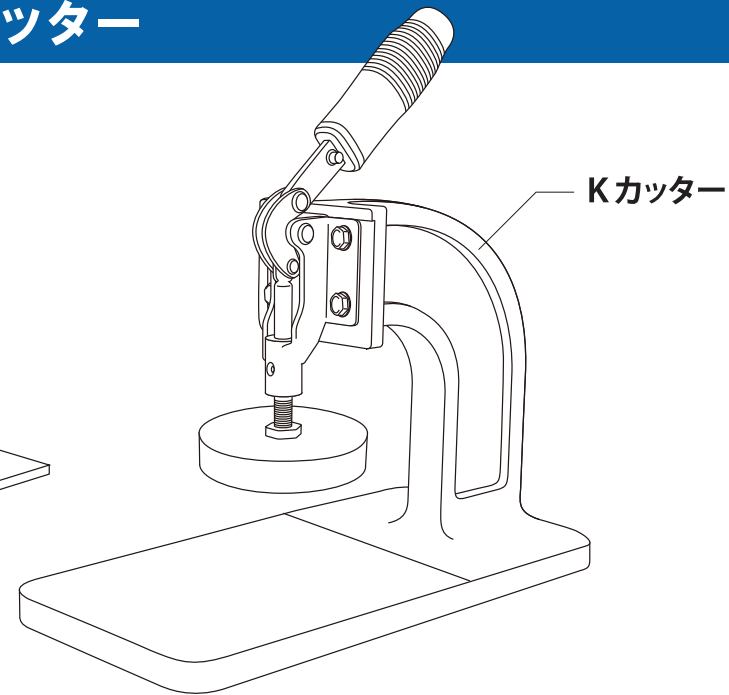


Kカッター

Kカッターブレード
※ Kカッターブレードは
種類によって形状が異なります。

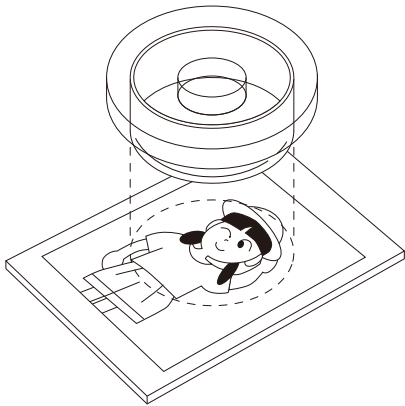
⚠ Kカッターブレードは刃物ですので、
取扱には注意してください。

カッティングマット



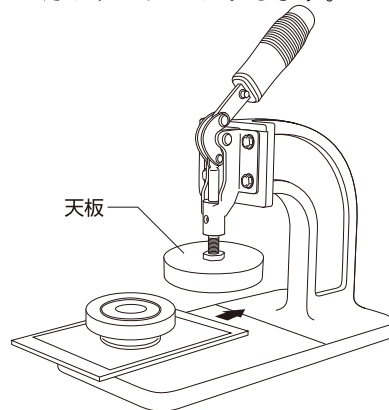
操作手順 (原稿をカットします。)

- 1** カッティングマットの上で、
Kカッターブレードを使い、
原稿のトリミングを決めます。



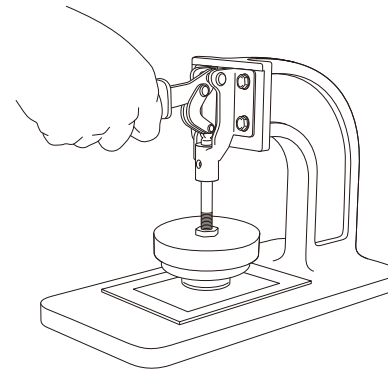
Kカッターブレードの刃部と背部を
間違わないようにセットしてください。

- 2** カッティングマットを
Kカッターにセットします。



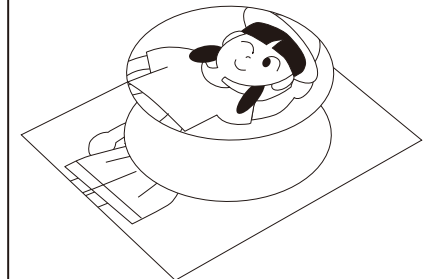
※ Kカッターブレードの中心を天板の中心で
プレスできる位置にセットしてください。

- 3** レバーを倒してプレスします。



※あまり強く力を入れすぎないように注意して
ください。強く力を入れすぎると、
Kカッターブレードがカッティングマットに
くい込み、取れにくくなる場合があります。

- 4** レバーを上げ、
原稿を取り出すと
カットされています。



MKカッター

Kカッターブレード

※ Kカッターブレードは種類によって形状が異なります。



Kカッターブレードは刃物ですので、取扱には注意してください。

カッティングマット

MKカッター本体

注意

使わない時は、
必ずレバーを前に倒した状態にしておいて下さい。

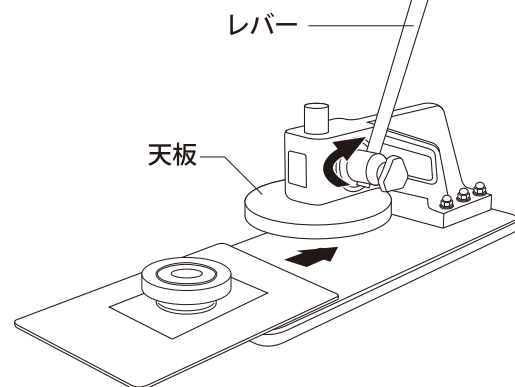
レバーにはロックがありませんので、上げた状態にしておくと、前に倒れてくる危険性があります。

操作手順（原稿をカットします。）

- 1** カッティングマット上に、原稿を置き、カット位置を決め、Kカッターブレードを置きます。

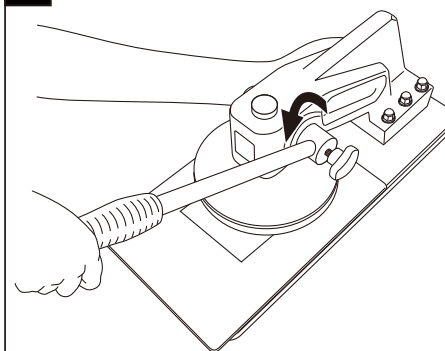


- 2** レバーを上げ、カッティングマットをMKカッターにセットします。



※ Kカッターブレードの中心を天板の中心でプレスできる位置にセットしてください。

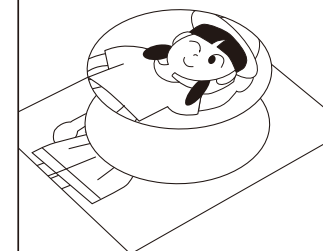
- 3** レバーを倒してプレスします。



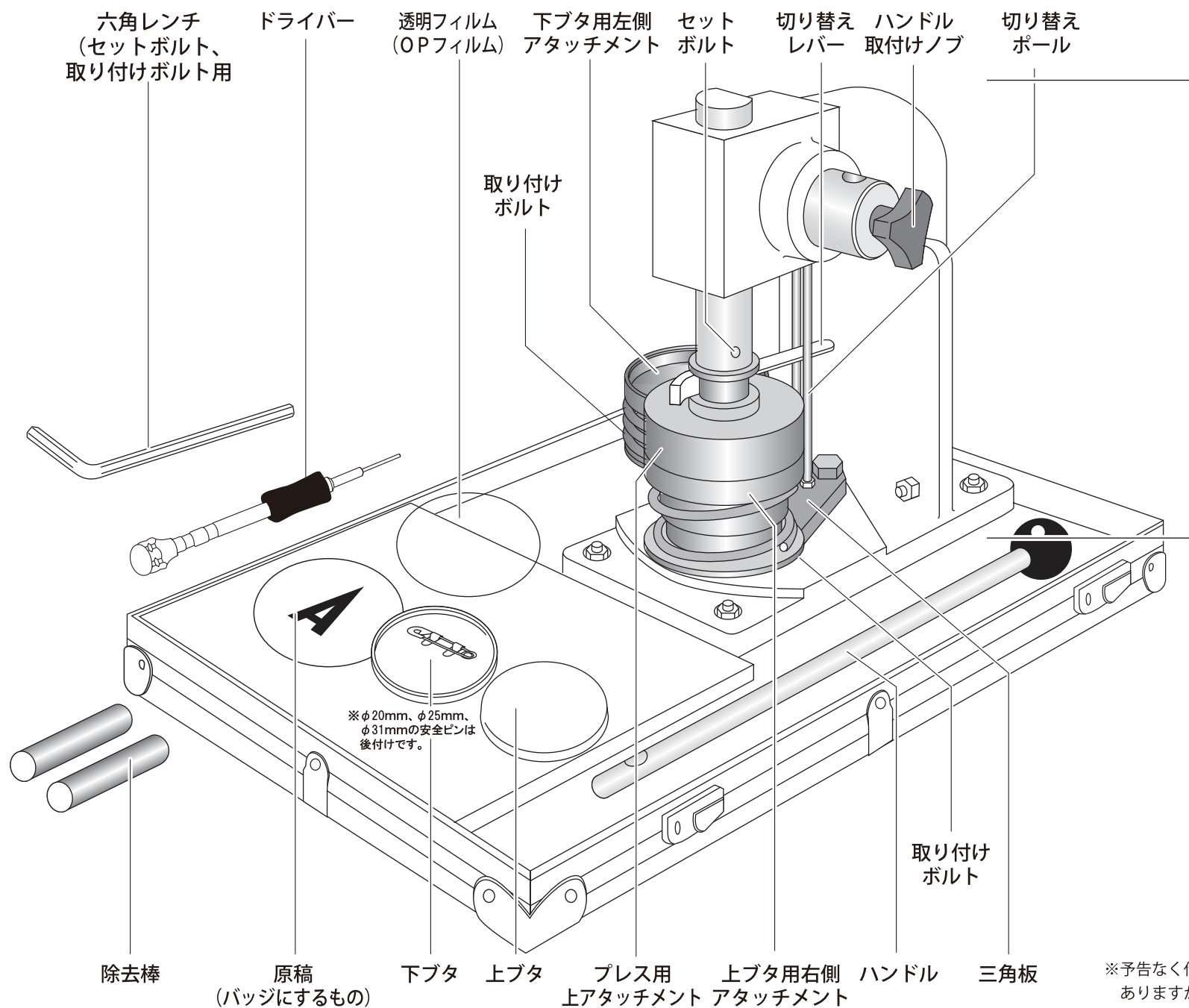
前方に倒れる恐れがありますので、片方の手でMKカッター本体を押さえながら、レバーを押し下げて下さい。

あまり強く力を入れすぎないように注意して下さい。強く力を入れすぎると、Kカッターブレードがカッティングマットに食い込み、取れにくくなる場合があります。

- 4** レバーを上げ、原稿を取り出すとカットされています。



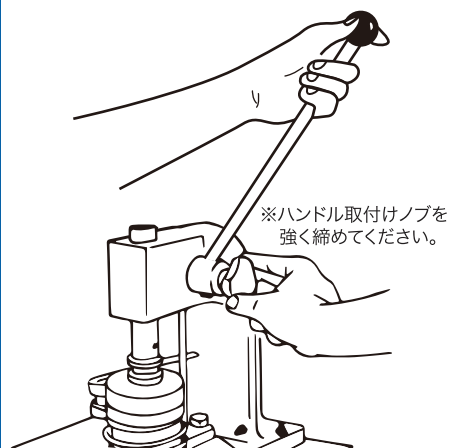
バッジマシン各部の名称



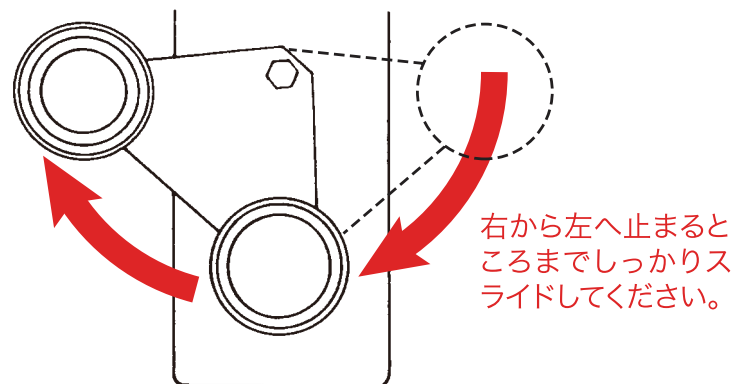
※予告なく仕様を変更する場合がありますが、ご了承ください。

バッジマシン・操作手順

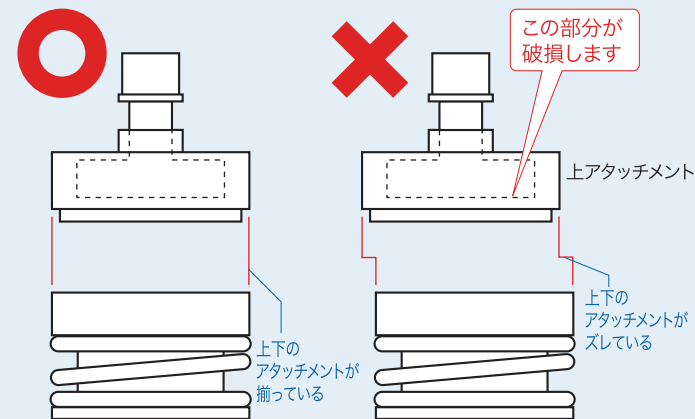
- 1** ハンドルを取り付けます。



- 2** 右側のアタッチメント(上ボタン用)がプレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。



ズレたままプレスすると、故障の原因となります。



- 3** アタッチメントに、上ボタン、原稿、透明フィルムの順に乗せます。

※この時、アタッチメントの枠からずれないようにセットしてください。

基本セッティング例

- ③透明フィルム(OPフィルム)

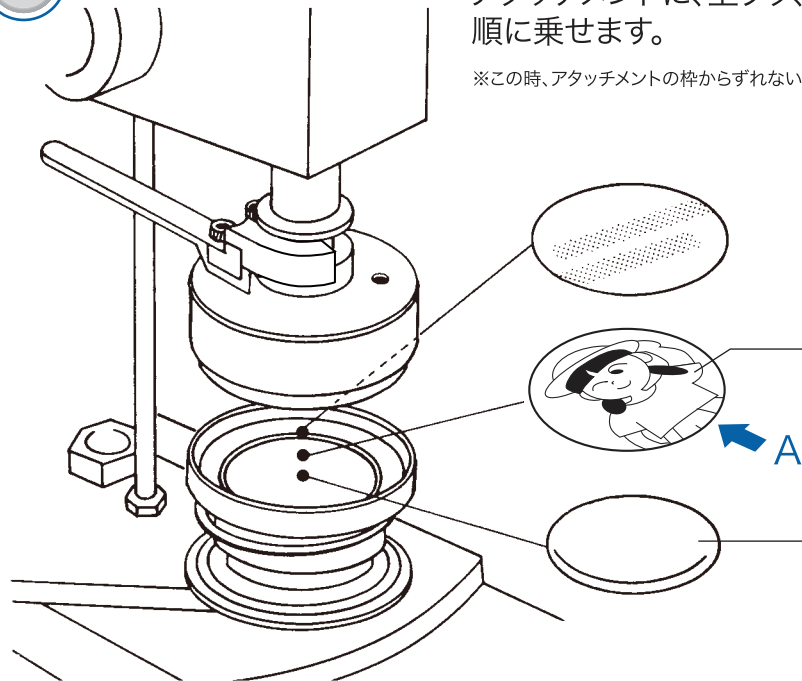
※一枚だけセットします。

- ②原稿

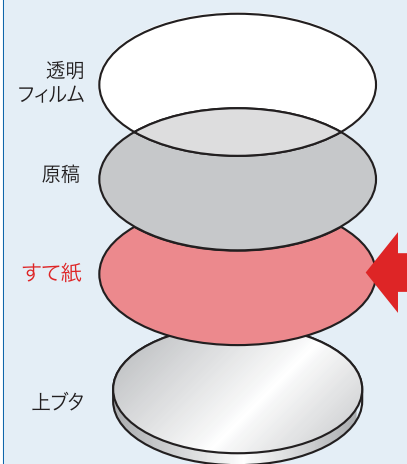
※原稿は表面を上にしてセット。
※Aの方向から見て(機械を正面から見て)、まっすぐになるようにセット。

- ①上ボタン

※お皿を伏せるような形でセット。



原稿が薄すぎる場合



原稿が薄すぎると、簡単に上ボタンと下ボタンが抜けてしまう場合があります。

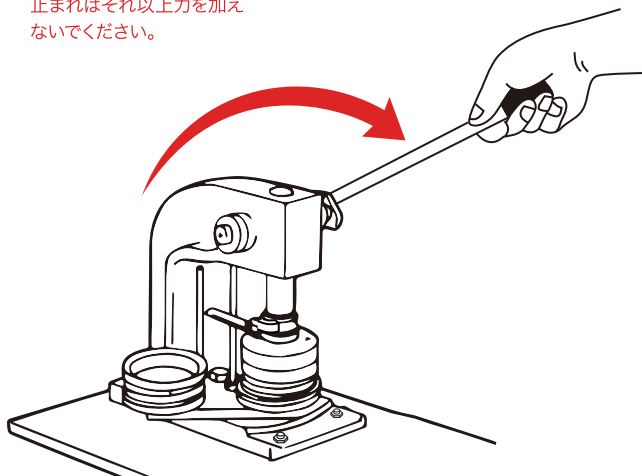
この場合は**すて紙を1枚**、原稿と上ボタの間にはさんでプレスしてください。

※逆に原稿が厚すぎる場合にはバッジが製作できない時や故障の原因になる場合があります

バッジマシーン・操作手順

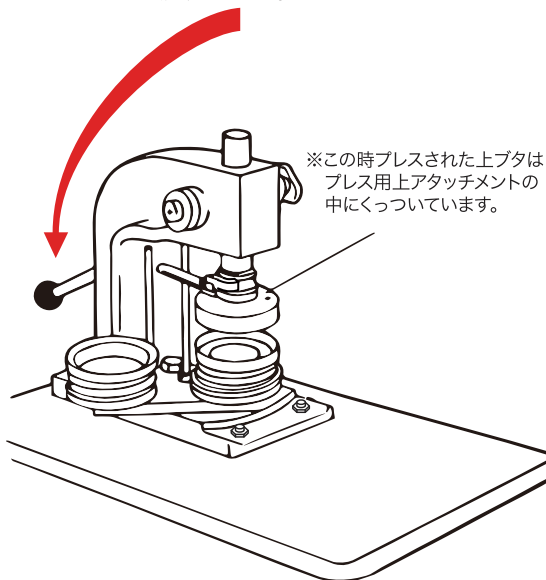
4 ハンドルを押し下げ、上ボタンをプレスします。

※ガクツと音がして、ハンドルが止まればそれ以上力を加えないでください。



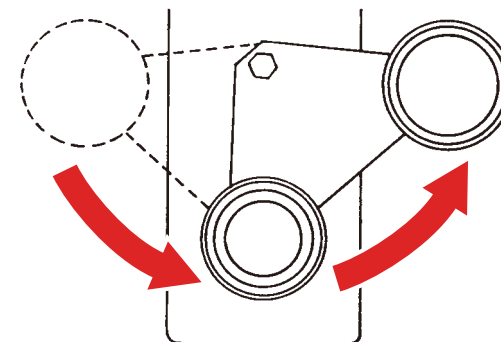
5 ハンドルを戻します。

※この時プレスされた上ボタンはプレス用上アタッチメントの中にくっついていきます。



6 下ボタン用左側アタッチメントが、プレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。

※アタッチメントは左から右へ止まるまでスライドさせてください。



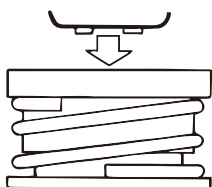
しっかりスライドさせないと、故障の原因となります。

前ページ 2 参照

7 下ボタンを下ボタン用左側アタッチメントにセットします。

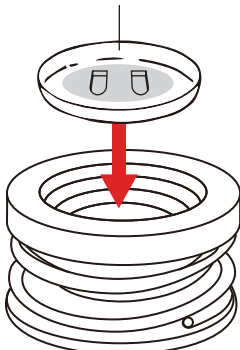
■ 基本バッジの場合

※上下の向きは下図のようにセットします。



※φ40mm、φ54mm、φ65mm、φ75mmの下ボタンは安全ピンが付いています。

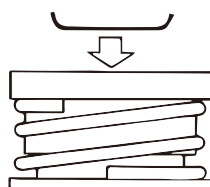
スタンダードバッジ用下ボタン



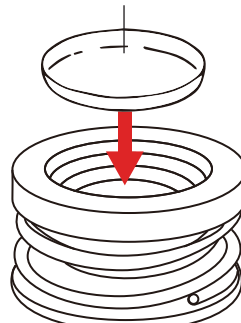
※機械を正面から見て、まっすぐになるようにセットします。

■ キーホルダー、フックホルダー等の場合

※上下の向きは下図のようにセットします。

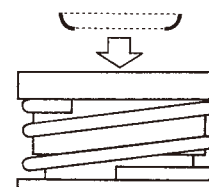


キーホルダー、フックホルダー用下ボタン
(フラットタイプ)

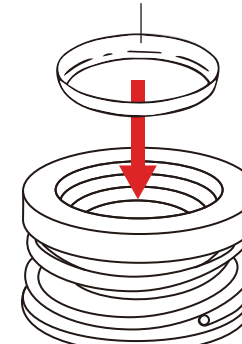


■ のの字ピンの場合

※上下の向きは下図のようにセットします。

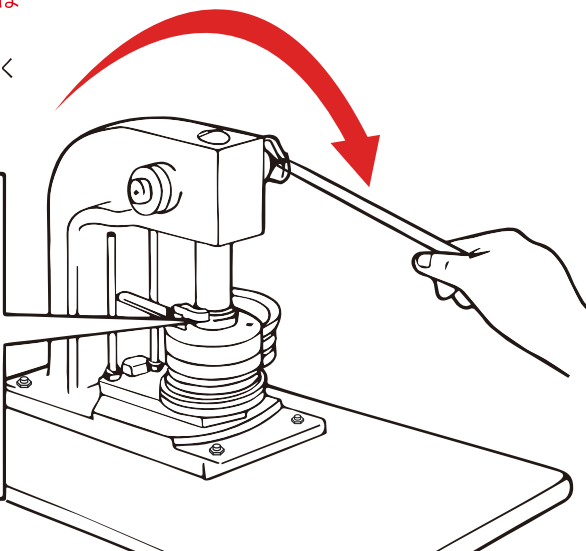
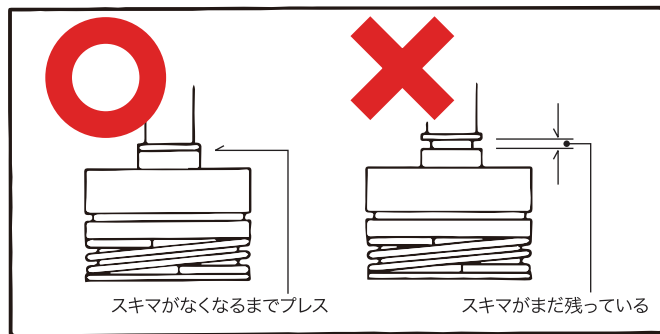


のの字ピン下ボタン
(リングタイプ)

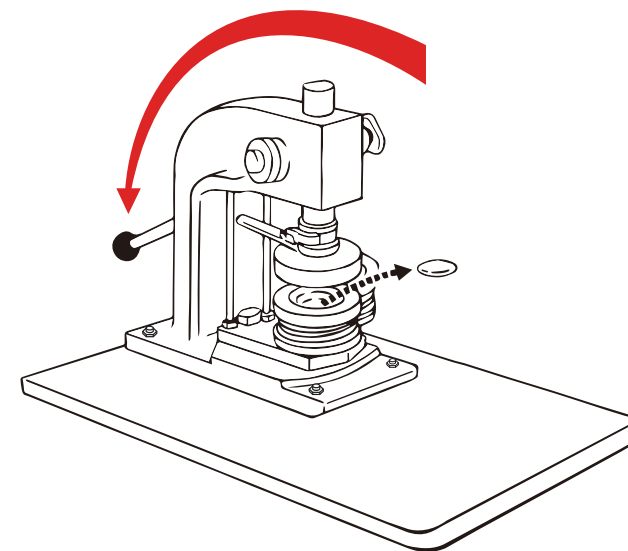


8 ハンドルを押し下げ、プレスします。

※この時、途中で止めずに最後までプレスしてください。(下図参照)
 ※小学一年生程度の力で簡単にバッジはできますので、**大人の方は体重をかけてプレスするなど、力をかけ過ぎないようにしてください。**
 ハンドルが曲がり、本体が損傷する場合がありますのでご注意ください。



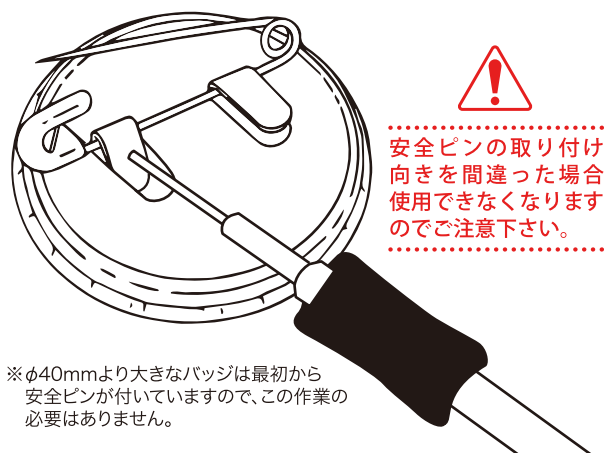
9 ハンドルを戻し、バッジを取り出します。



10 それぞれのグッズに仕上げて完成です。

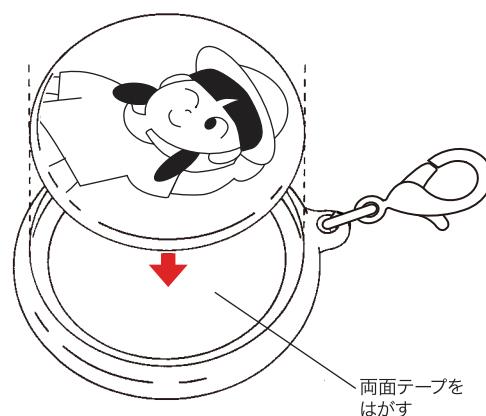
■基本バッジの場合

バッジは裏返し、付属のドライバーを使って添付の安全ピンを取り付けます。



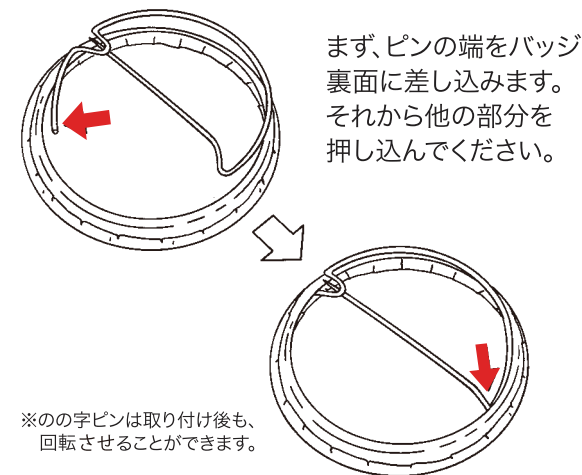
■キーホルダー、フックホルダー等の場合

バッジをホルダー本体に貼り付けます。



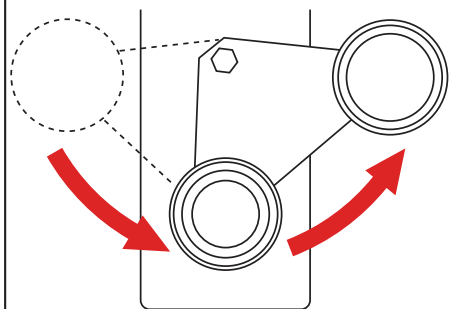
■のの字ピンの場合

バッジを裏返し、のの字ピンを取り付けます。

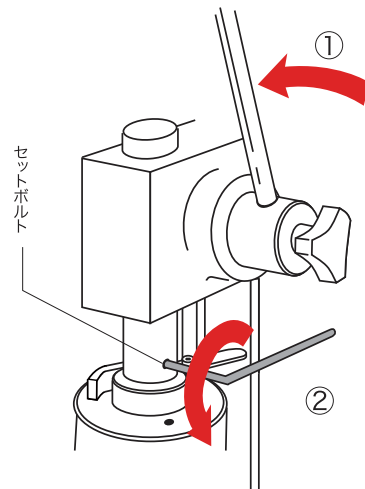


アタッチメントの取り外し方

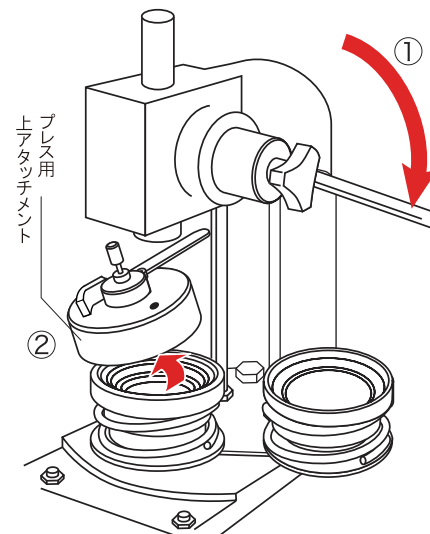
- 1** ハンドルを後ろに倒した状態で下ボタン左側アタッチメントが中央にくるように右側にスライドします。



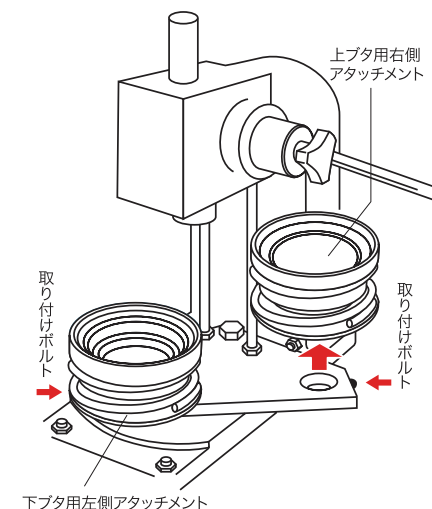
- 2** ハンドルを前へ倒して、プレス用上アタッチメントを下げて、六角レンチでセットボルトをゆるめます。
※セットボルトは固くしまっている場合がありますのでご注意ください。



- 3** ハンドルを後ろへ倒し、プレス用上アタッチメントを取り外します。

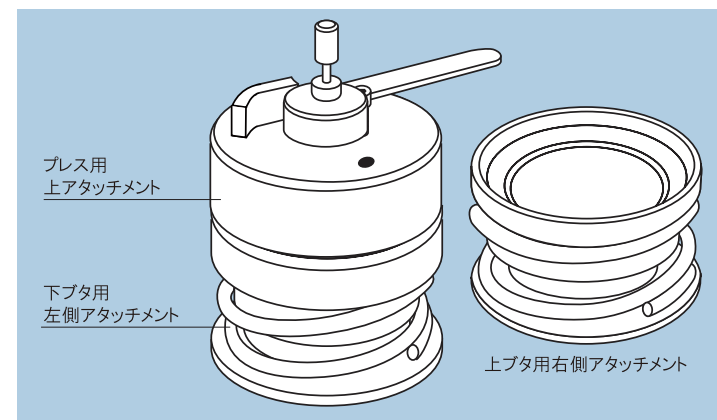


- 4** 下ボタン左側アタッチメントと上ボタン右側アタッチメントを取り外します。
※取り付けボルトをゆるめて、取り外します。



取り外したアタッチメントは丁寧に扱ってください。

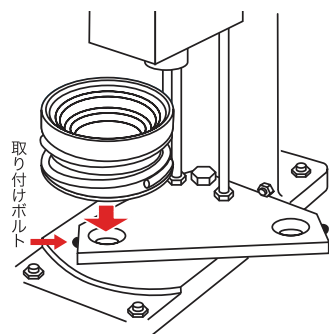
右図のように、プレス用上アタッチメントと下ボタン左側アタッチメントを重ねて、湿度の多い場所を避け保管してください。



アタッチメントの取り付け方

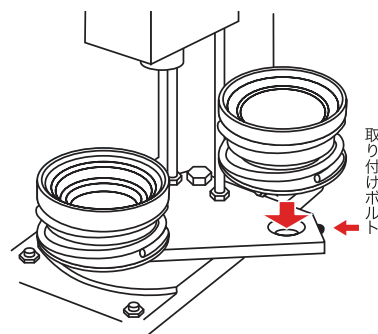
- 1** 下ボタン用左側アタッチメント（くぼみの深い方）を左側に取り付けます。

※取り付けボルトをしめ、固定します。

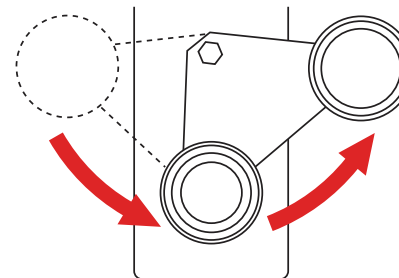


- 2** 上ボタン用右側アタッチメントを右側に取り付けます。

※取り付けボルトをしめ、固定します。

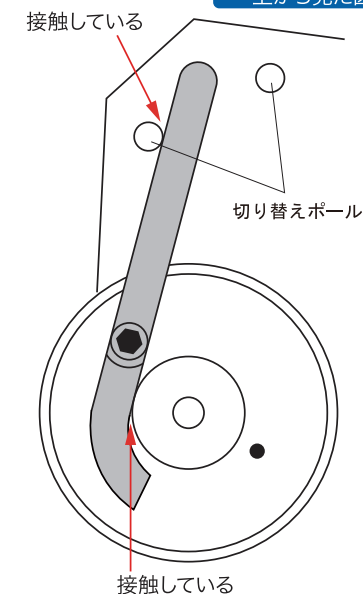


- 3** ハンドルを後ろに倒した状態で下ボタン用左側アタッチメントが中央にくるように右側にスライドします。

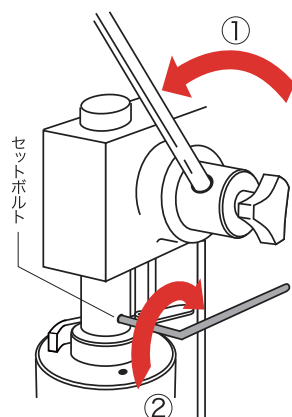


- 4** 下ボタン用左側アタッチメントの上に、プレス用上アタッチメントを乗せ、図の位置にセットします。

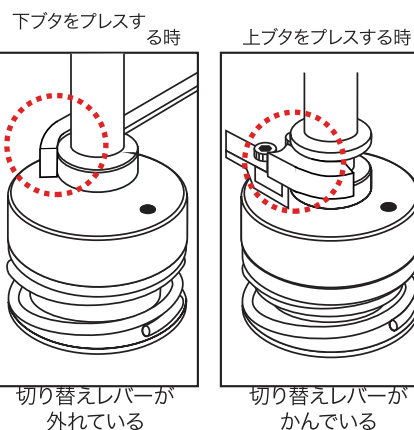
上から見た図



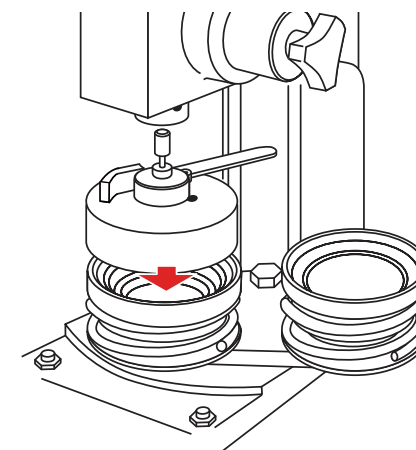
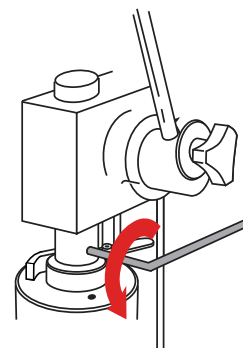
- 5** ハンドルをおろし、六角レンチでセットボルトをしめます。



- 6** 下図のようになっていることを確認します。



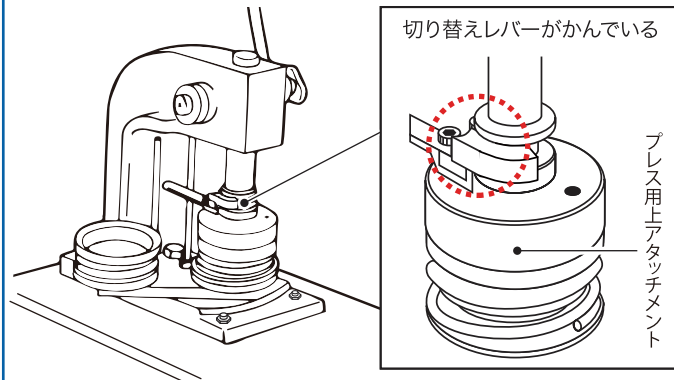
- 7** 切り替えレバーが6図のようにならない時は、セットボルトをゆるめて4～5の作業をやり直して下さい。



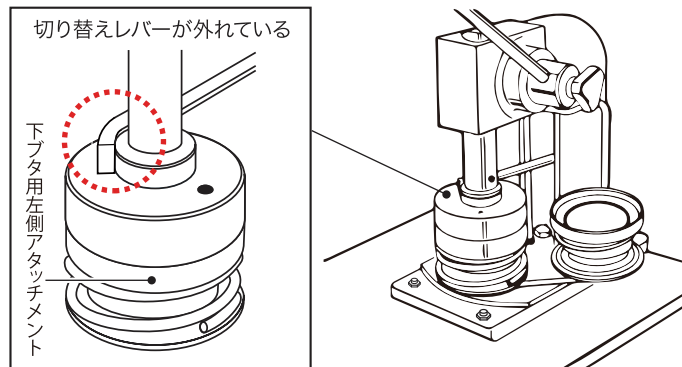
故障かな？と思ったら(うまくプレスできない)

アタッチメントが正しくセットされているかを確認

①上ボタンをプレスする状態でチェック。



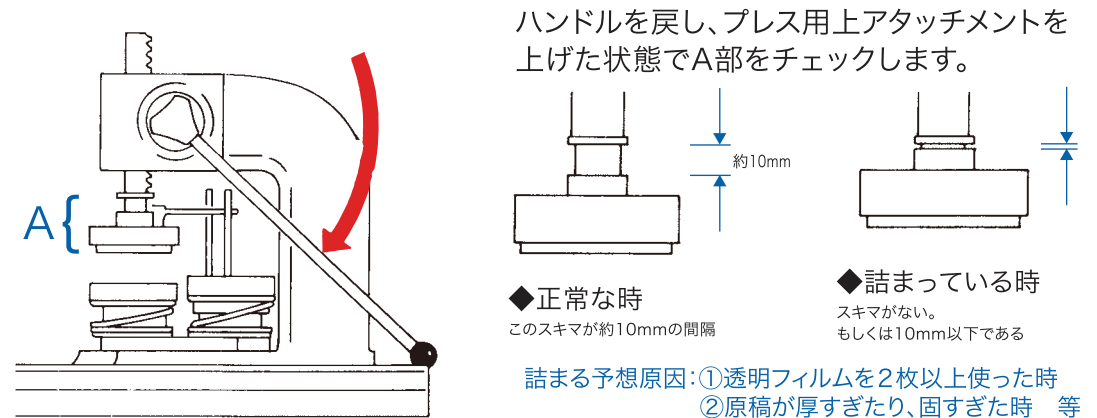
②下ボタンをプレスする状態でチェック。



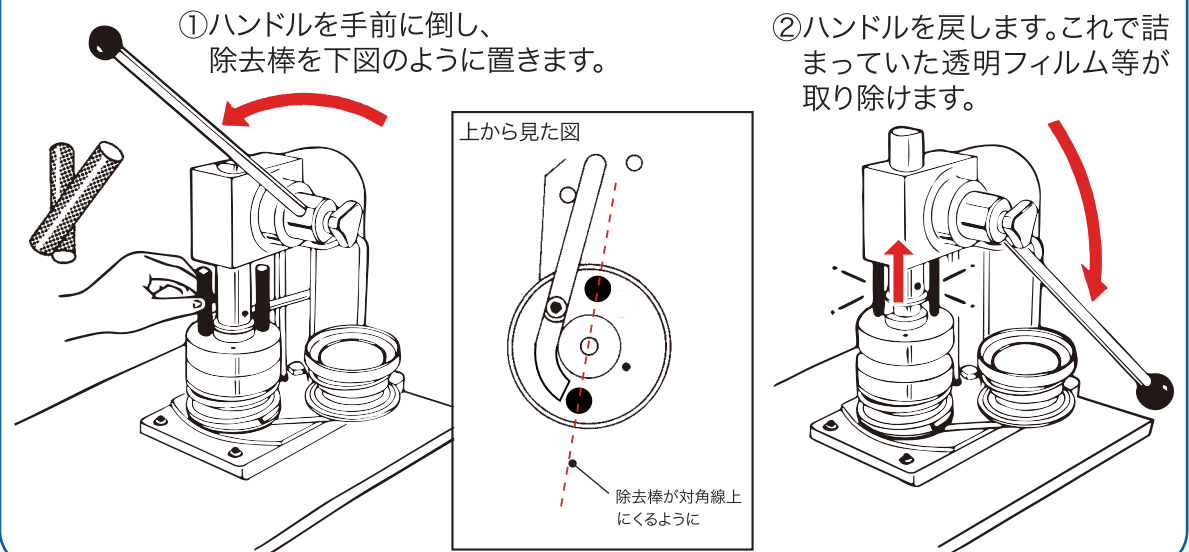
上図のようになっていなければセットし直します。

前ページの「アタッチメントの取り付け方」を参照し、3～7の手順でセットし直して下さい。

透明フィルム等がプレス用上アタッチメントに詰まっているかを確認



詰まっている透明フィルム等を取り除きます。



※上記の方法でも状況が改善しない場合は、点検・修理が必要な場合がございます。

メンテナンス方法

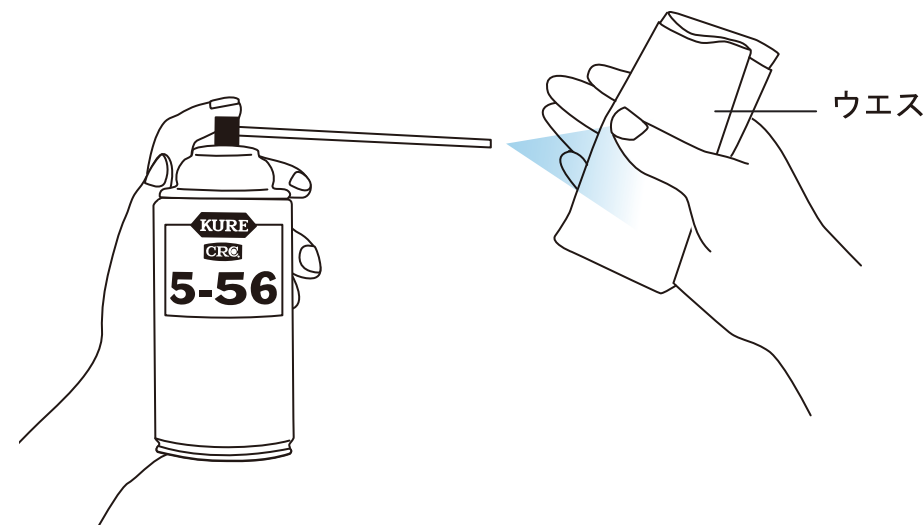
【メンテナンス前のご準備】

アタッチメントを取り外し (P. 7 参照)

ウエス (布) に浸透潤滑剤

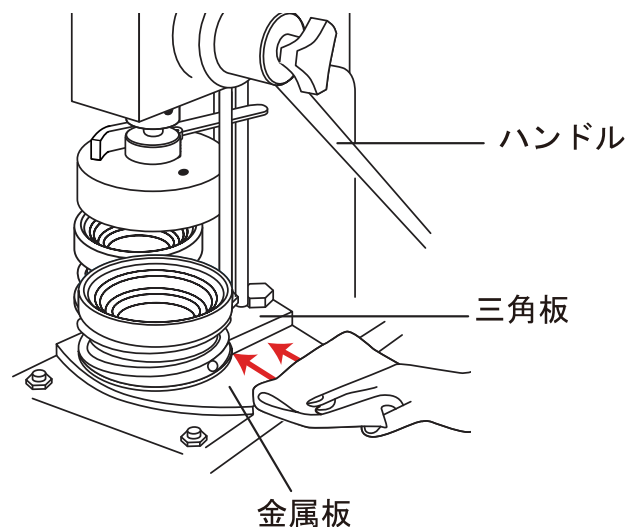
(推奨品：呉工業株式会社製 KURE CRC5-56) を
軽く含ませてください。

※浸透潤滑剤を機械に直接吹き付けしないで下さい。
故障の原因となります。



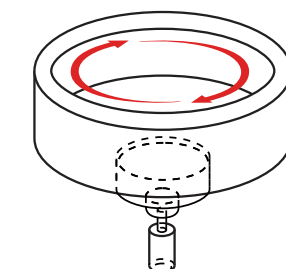
【バッジマシーン】

ハンドルを後ろに倒した状態で、三角板を左右にスライドし、
ウエス (布) で三角板の下の金属板を拭き取って下さい。

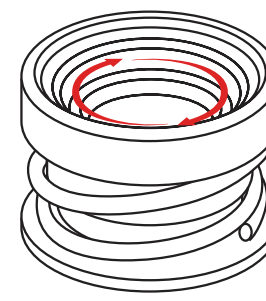


【アタッチメント】

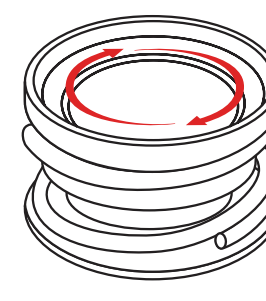
ウエス (布) で取り外したアタッチメントの内側を円を
描くように拭き取って下さい。



プレス用
上アタッチメント



下ボタン用
左側アタッチメント



上ボタン用
右側アタッチメント

原稿制作・印刷時の注意点

■紙(紙厚)の選択

- アート・コート紙 四／六判(788×1,091mm) ……135kg
菊判(639×939mm) ……93.5kg

上記の紙を使用していればきれいなバッジができます。

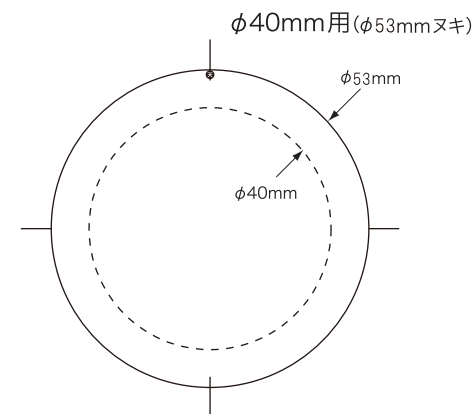
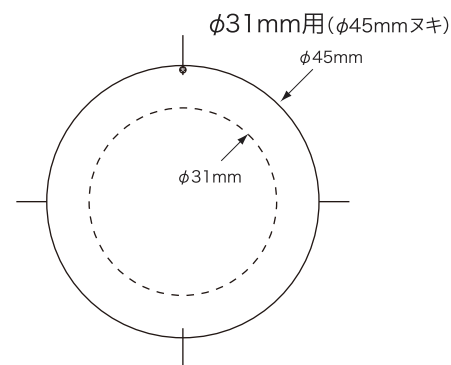
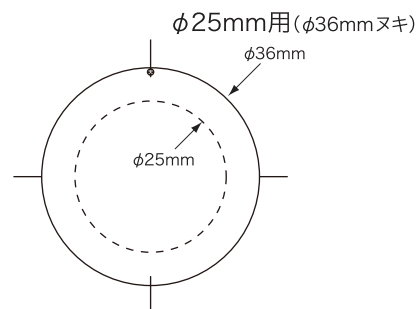
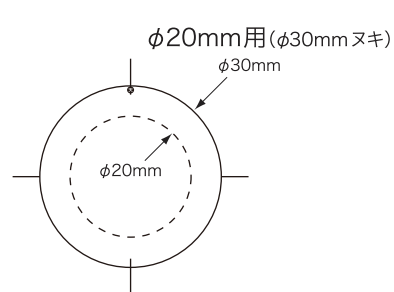
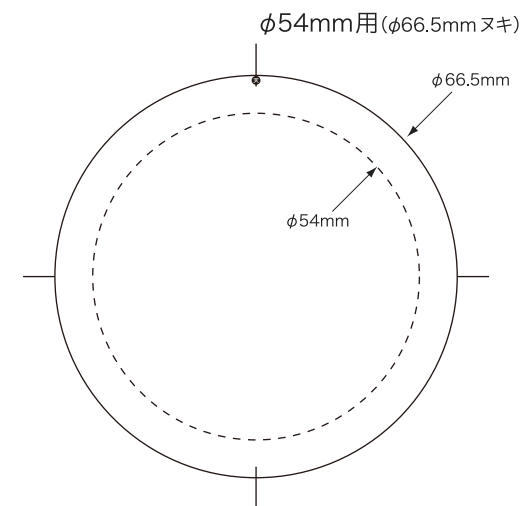
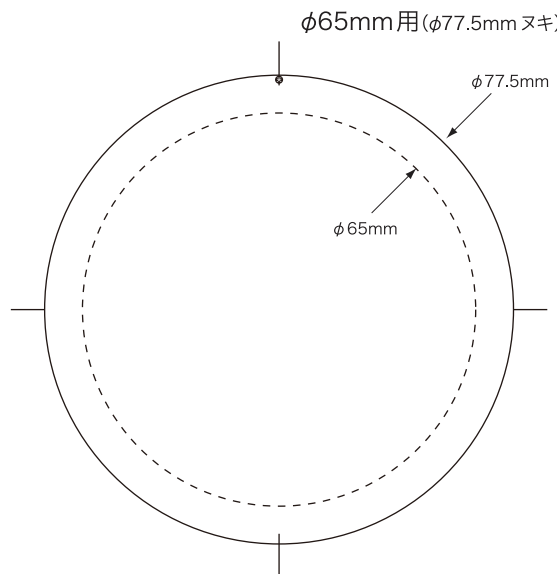
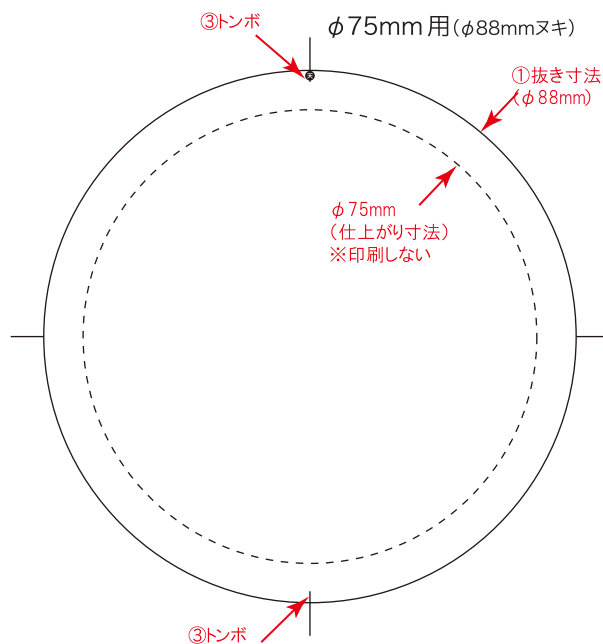
●カラープリンター出力の場合

薄口用の紙の場合は簡単に上ボタンと下ボタンが外れる場合があります。
この場合は紙を1枚原稿と上ボタンの間にはさんでプレスして下さい。

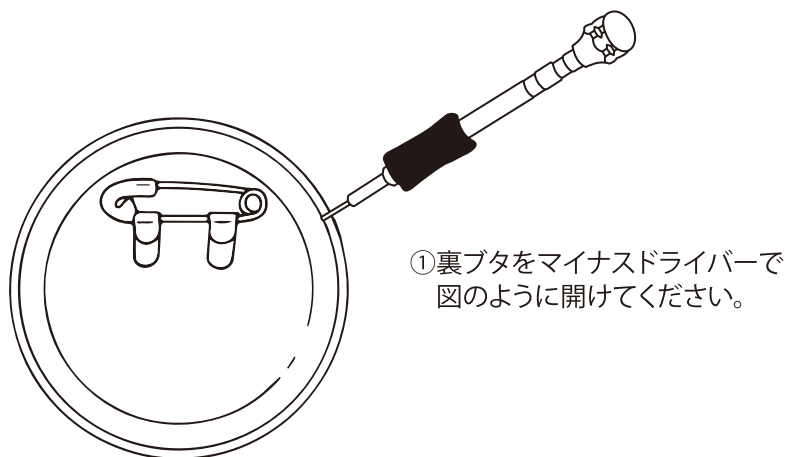
■バッジデザイン作成時の注意点

- ①バッジを作る場合、実際のバッジ寸法の他に巻きしろが必要となります(抜き寸法)。
背景などはここまで塗り足しをつけてください。
- ②製造の過程で少しのズレが生じる場合がありますので、主要なデザインは仕上がり寸法(点線)より
1mm程度内側に配置してください。(印刷する場合はこの点線はプリントしないでください。)
- ③外円の天地から内側へ2mm程、トンボ(実線)を入れてください。
※バッジを作るときに天地の基準となる線です。必ず入れてください。
- ④バッジの外円(実線)と外円との間隔を6mmとってください。

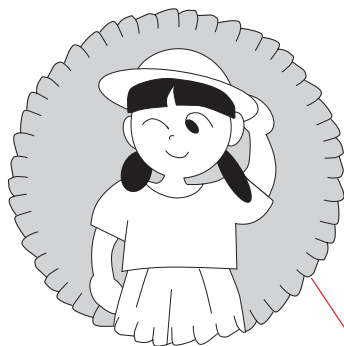
弊社ホームページにデータ作成用テンプレートをご用意しておりますので、目的に合ったサイズをお選びの上、ご使用ください。→<http://www.daiki-peck.co.jp/template/>



バッジ制作に失敗した時は



①裏ブタをマイナスドライバーで図のように開けてください。



②次に失敗した紙、写真などのシワをよく伸ばしてください。そして最初からバッジ作りにかかってください。この時の作業工程はゆっくりと行ってください。

※失敗したパーツは使用しないでください。

このシワをよく伸ばしてください。

よくあるご質問

Q.1 缶バッジのパーツは何個から販売していますか？

A. 缶バッジのパーツは100個単位で販売しております。
ロットが多くなる場合は単価も安くなります。
ロットでお悩みの場合は一度ご相談下さい。

Q.2 どんな素材が缶バッジにできますか？

A. 基本的に紙であればほとんど缶バッジに出来ます。
特殊な素材を缶バッジにしたい場合は
事前にご相談下さい。

Q.3 バッジマシンが故障した場合はどうなりますか？

A. 故障したものを送りいただき、修理後に送り返す
“センドバック”方式になります。修理中に必要な場合は
代替機を用意しますので、お気軽にご相談ください。